

て旅順の戦蹟を見学しました。驛より支那馬車十臺に分乗、思ひの外仲々氣持のよいものです。先づ白玉山見學、英靈を祀れる神社と

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

發行所 大内民惠
 編集者 大内民惠
 印刷所 大内民惠
 電話 八三〇
 代價 毎部一圓
 郵費 在內
 發行日 一月一日

當選御禮式 選舉を排す

市町村議選舉改革案

大内民惠

本年は市町村議の選舉年であつて、こゝ二三ヶ月間に之が行はるゝ事となり、其運動もそろ／＼野山の草木と共に、芽ざして來た様であるから、此機會に於て我所見の一端を述べて其參考に資したいと思ふ。こゝに所謂

當選御禮式 選舉とは、之れ記者の命名であつて現代に於ける選舉の總べてが、此式であるといつてもよいと思ふのである。之を解説すれば、いふ迄もなく選舉の精神は、有権者各自が、自己の代表者を選出し、其權限の遂行を委任するものであるから、其力量徳望等優に自己の代表者として、眞に信頼するに足る人物を投票選舉して、之に

ラチカも船客の無聊を慰め、盛に木能を發揮して居ます。四日三晩の海上生活、第一日も無事終りそうです。晝飯も併つても出し

動費もつかつて、立候補を企て、其任ではないが各位の推薦阻止し難く已を得ず立候補するに到つたから希くは清き一票を云々といつた様な宣言書を發表し、事務所を設け、運動員を擧げ、大看板を立て、名刺やビラをばらまき、果ては買収もやれば、縁故關係をたどつて戸別訪問もやる

疑獄の頻發を見るが如きは之を雄辯に證するものである。それは勿論理想の選舉の行はるゝ、若干の例外はなきしもあらずであるが、其殆ど全部は以上略述する通りの方法によつて、選舉は之を行はれ、殊に候補者は選舉當時に於ては（當選後は別として）有権者に對して、それこそ七重の膝を八重に折つても願ひ願ひして當選を期するものである。故に當選御禮といふ矛盾も夥しい、言葉や事實が全國を擧げて交はされ行はるゝのである

之に伴ふて假りに一人の候補者に對して十人の運動員が、十日間に關與することにして、一日一人の勞力費即ちヒマダレを一圓として計上すれば、五十一萬七千七百圓となり、總計百萬圓を突破するのである。實際は之れ以上である事は明かである。而して其内には借金して迄も運動費を工面するといふ阿呆もあり、又之を擔ぐ馬鹿者もあるのである。

- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

野

心をも有する者が、例へば一黨一派に偏して、自派の權勢を張ると同時に自己及我黨に屬する市町村民の公課を輕減せんが爲とか、或は地方自治の精神などは更に御存知なく、將た主義も理想も有せず、たゞ何となしに、名譽職の肩書ほしさの爲とか、甚だしきは其肩書を利用して、何ぞ利權にありつかんが爲とかいふ様に一種の背任行爲をも敢てしやうといふ様な連中が、あらゆる手段、あらゆる機會をとらへて、それ相應の選

愚も亦甚しい哉と、云はざるを得ないのである。次に少しく其選舉費用について吾人の觀察を語るが、本縣下に於て町村會議員の数は、五千八十七人で、少くも一人の平均費用を百圓と見れば、五十萬八千七百圓を要し、市會議員数は九十八人で、之亦少くも平均一人一千圓と見れば六十萬圓を要し、之が合計は六十萬圓といふ巨額に上り、且つ

違 一方選舉人の方でも、彼は金もあるし、野心もあるから一つ擔いでやれ、飲んでやれ、又さうしておけば、我等の公課も輕減して宜も計つてもらはれるし、利權にありつく事も出来るといふ調子で行き、又本縣の或市で聞いた話であるが一族から市會議員を出して置けば、いざといふ時に市役所學校等何處へ行つても其名刺を振りまはす事によつて

非 當時、國力伸展の爲に將た市町村更生の爲に之を使ふ途は何程でもある（以下二面へつづく）

(一面よりつづく)

のである。本縣下に於て、
假りにかうした人々が、五
千余人も現はれたとしたな
らば、全國を風靡するは勿
論、我帝國の使命を全うす
る敢て難きにあらざると思は
れる。同時に我市町村議の
選舉の如きも、一錢の出費
も要する事なく、立派なる
眞の代表者を選出するに到
る事請合であると思はれる
斯く論じれば、如何にも
時代離れのした

誇 大妄想狂の言動でもあ
るかの様に思はれるが
一般の人々さへ覺醒するな
らば、容易に實現し得らる
事と思ふ。記者の居住地
字宮澤に親和會といふ團體
があり、不肖之が主宰者で
あるが、去る十二日健康保
險議員選舉に際し、一同と
協議の結果、二人の候補者
を挙げ、合せて二百餘票、
推薦した所屬有権者の殆ど
全部が之に投票して、其當
選を見たのであるが、其推
薦狀の全文は左の通りであ
つた。

致し候に付区内有権者各位には一
票を以て選する事なく、投票を以て我
等の代表を御選出有之様特に念違
致候同時に我等は兩氏をして一錢
の出費をも煩さず當選の榮譽を奉
り其任務遂行を乞ふ次第に御座候
昭和八年三月六日 敬具
宮澤親和會一同
有権者各位
(責任者大内民惠)

而して印刷費茶菓新炭費等
數圓を要したのであるが、
之は總べて會費寄附金等で
支辨し

當 選御禮といふ言葉や行
動は絶対に之を廢し、
當選者からは御期待に添ふ
べく最善を盡すといひ、選
舉者からは祝意を表するこ
同時によろしく御願申すと
いふ形式をとつたのである
來るべき村議選舉に於ても
少くも我宮澤親和會は、此
方法により、政黨を超越し
（地方自治に政黨は禁物で
ある事は記者の持論）情實
を排し、野心家を斥け、ほ
んどに

立 派な人物を懇望推薦し
て、我等の代表を選任
する事を、全員一致言はず
語らずの中に、決心覺悟を
して居るのである。乞ふ所
より始めよ、一波は萬波を
起す根元となる。以て我等
は天下に範を示さんと欲す
るものである

昭和八年度豫算決定

二月二十八日、三月六日
同八日の三日にわたり村會
開議、村税賦課率決定の件
八年度村基本金蓄積停止の
件、野木元村長に對し退職
慰勞として五百圓贈呈の件
岡田元校長に對し同百圓贈
呈の件、歳入十一萬七千六
百十五圓、歳出經常部十一
萬一千八百二十三圓、臨時
部五千七百九十二圓、計十
一萬七千六百五十五圓、(歳
出の重なるもの役場費一萬
一千七百四圓、小學校費七
萬九百三十五圓、一時支拂
充當の爲五千圓以内借入を
なす件、村基本金預入銀行
決定の件、歳計現金預入先
決定の件の八案を審議決定
した。

- 田中宇一郎 石橋 弘毅
- 會田政治郎 小野 昇
- 加美山武夫 田寺 茂實
- 田中 義枝 湊 慶三郎
- 金原喜一郎 齋藤 祐治
- 佐々木大作 山崎 辰亥
- 濱崎善三郎 三澤 義則
- 長谷川幾之助
- △互選の部
- 影山 濟 村上芳三郎
- 松崎彌一郎 齋藤 源策
- 伊藤 福松 新井萬次郎
- 増澤 武 羽田房次郎
- 鈴木 益次 海老名寅藏
- 永久保勝榮 和田 政市
- 加藤甚之助 山崎 政次
- 清野喜右門 津田松之助
- 中村龜次郎 齋藤 保
- 秋場 清 草木勘之丞
- 宍戸 信義 濱崎善三郎

健保議員改選

二ヶ年が其任期である磐
城炭礦健康保險組合會議員
が満期になつたので、去る
十二日それ／＼事業主の選
定と被保險者の互選とを了
し、同時に理事及理事長を
決定した。其氏名は左の通
りである。(議席順)

- △選定の部
- 小島 良利 長堀 壯三
- 大瀧 正晴 筒井 磐雄
- 林田 滿 橙村 留雄
- 理事
- 佐藤(喜)の三 班長は幹事

淺野翁紀念館

愈々竣工したので來月十
四日盛大なる開館式を舉行
すべく目下準備中。

△理事長 濱崎善三郎

修養團

磐城修養團支部では、去
る四日集會所に幹部會開催
る新に志賀保治大内弘喜星新
吾阿部惣重森下寅一の五氏
を幹事に推薦し、武藤鈴木
佐藤(喜)の三 班長は幹事

本紙贊助金寄贈芳名
金五圓 亡兒追憶供養の爲
磐城 〇イ 生
金參圓 綴驛々員會
金貳圓 金坂 中野 商店
金五圓 小島 加藤 丈夫

上層親和會

過般字津川笠井井關杉山
管野の諸氏出火罹災の際、
上層親和會では、會長白田
義之副會長鈴木清太郎委員
伊藤長助鈴木文平の五氏は
社宅世話役諸氏と合議奔走
して會員一同より白米七斗
を集め、前記罹災者諸氏へ
見舞として贈呈したる由。
誠に奇特の事であつた。

驛長交迭

過去六年間令
名噴々たりし
綴驛長立枝信勝氏は助川驛
長に榮轉。後任として助川
驛長淺川虎彦氏來任。

水戸觀梅

三月五日立枝
驛長主權。團
に加はる一行二百の盛況。
學藝會 二三月にかけ各
小學校にて開催
何れも盛況を極む。

教育制度改革概論

矢野 恒太 大内民惠 著
服部宇之吉 大内民惠 著
(四六版二二頁 定價五十錢 郵稅六錢)

磐炭寄附決定

學級增加延期

自力更生策をたづねて

父となりて

日本評論社

發行所 東京丸の内昭和ビル
取次所 内郷村報社

一月二十六日から翌二十七日(翌正月元旦と二日)にかけて親子

選挙に際し我宮澤區に於ては人物
徳望既に定評ある
村上芳三郎君 齋藤保君
の兩氏に立候補せられん事を懇請
し其快諾を得全員一致を以て推薦
するものである

矢野 恒太序 大内 民惠著 服部 宇之吉 教育制度改革概論 (四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體し
て、學理と實際と、歴史と實驗とを
ら新に大内案九主義を提唱す。天下
知名の士の賛同校挙に違あらず。さ
れど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
京大教授小西重直博士
書を寄せて曰く、多年御體験ト實地
ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜
味仕リ不思議感激ヲ打テ申候云々。

發行所 日本評論社
東京丸の内昭和ビル
取次所 内郷村報社

磐炭寄附決定

學級增加延期

前號に礦産稅交附に伴ふ
て、本村對磐炭間に寄附問
題の起つた事を報道して置
いたが、誠意ある兩者懇談
の結果、從來の一萬二千圓
中(年額)四千圓減額八千
圓を寄附する事に決定した
る由である。尙小學校の學
級増加は萬已むを得ざる爲
に來年度に延期したる由。



右より
川又多三郎君
山田源三郎君
工藤米三郎君
藤原一郎君

區長改選

區長及區長代理は本月を
以て任期満了となつたので
十八日の村會に於て、新に
推薦左の通り決定した。順
序は區順。點は再選。

區長 利重 區長代理 大越惣市郎
若松 茂作 高萩 佐重
葉谷 久野藤次郎
○金成源次郎 久野藤次郎
○金澤 慶一 佐藤久太郎
齋藤 彌平 山崎 糸二
草野政太郎 遠藤萬四郎
生田吉太郎 生田傳四郎

内郷信用組合

有限責任内郷信用組合は
逐年順調に向上しつゝある
が本年度に於て、二千二百
三十圓五錢の剰餘金を出し
それ、準備金積立金を控
除して出資拂込に對し年五
分の配當をしたる由。左に
報告書の抜萃を掲載する。

本年度内の貸付總額壹萬七
千五百七拾六圓。回収額壹
萬七千參百五拾圓參拾四錢
年度末現在額四萬六千貳百
八拾六圓五錢此件數百九拾
九件百五拾參人。本年度貸
業資金貸付壹萬壹千四百拾
六圓此件數六十一件。舊債
償還貸付六千六百拾圓此件
數拾五件。年度末現在貸付
內譯産業資金貳萬七千六百
四拾壹圓百七拾七錢。經濟資
金壹萬八千六百拾五圓五
錢此件數八十二件。

自力更生策をたづねて

内郷川平郵便局長 草野三千雄

相馬郡上真野村に於て、二月一
日から十日間、本縣最初の美術竹
細工の講習會が開催されたので、
農村の副業として郷土に獎勵して
見たいと云ふ考へから、之に出席
して見たのであつた。

竹は東洋の特産物であり、その
製作品は、種類も多く、販路も廣
く海外にも輸出される、云ふから
將來有望である事は請合である。
講習期間が短かったので、製作に對
する自信はないが、參考とするに
は充分であつた。美術と銘をうつ
ただけであつて、眞の藝術味を出すた
めには、相當の熟練と努力を必要
とする事勿論なれども、初心者も雖
努力次第で、簡單なものに案ずる
程もなく、製作し得ると云ふ事は
自分の經驗に依つて、明かである
から、農閑期を利用して副業とし
ては、理想的のものであると思ふ
。尙全村では自力更生策として、
種々なる實行案が決定されて居る
が、特に注目すべきは、副業方面
に、非常な力を入れて居る點と、
冠婚葬祭の徹底的改善であると思
ふ。婚禮は村の公營とされ村長が
一切を請負ふ事になつて居り、其
費用は五十圓、三十圓、二十圓の
三種に限られて居るのである。そ
の式は簡素ではあるが、然も禮儀
に行はれるので、村民は皆喜んで
實行して居ると云ふ事である。

冠婚葬祭の費用は、幾家として最
も大なる臆みであるが、之を斷乎
として揭示した。村當局も偉いが
之を衆村一致で實行する、村民も

父となりて

大内弘喜

一月二十六日から翌二十七日(舊正月元日と二日)にかけて男子二人が生まれた。二人共初めから大變丈夫で、今ぐんぐん肥りつゝある。長男は婆婆の空気を早く吸つた方で喜一郎、次男坊は多門と命名した。

體をも心も人にすぐれて生れぬまきに我祈るなり
生れたかお、おこは、も丈夫か父は今喜びみちいていふ事知らぬやすくも男の子二人のれいきなば聞きつゝ、床に入りけるかな風をひきて鼻のつまりし子供らの枕邊にゐてれむれざりけり

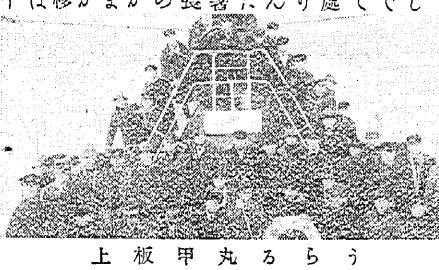
(前略) やうく肥りか、りたる體の眞赤なるが恰も金時の如き壓倒的勢力を思はせてギイギイ言ひて泣く。ツツカロールを尻へたにたつき襦袢を一枚つた、む様にして着す。心地よくなるか泣き方をやめて、大いなる眼玉をクルクル廻す。可愛きもの、固まれるにや。やがて男なれば、左手の白魚の如きを一一つひらきては長命の想よ喜び合ひにけり。
子の指を開きて見たる炬燵哉
二月八日の日記より

早 春 白河 安部井藤玄
野水源溪似弄絃 陌頭揚柳帶輕烟
嬌態未轉梅將綻 畫出東風雪後天
梅 同 同
行吟半日入烟霞 乘輿何須叩酒家
野水之涯山下路 黃鸝囀處有梅花
謹 告
北海道旅行、公用出張等で、本紙發行のおくれた事をお詫びいたします。

鮮滿視察日信 (其四)

大連 日本國民高等學校生徒

東旅館にて、十二月十日苦力の項つき。一日二十四錢五厘を苦力頭に納めて病氣の時などはなほる迄治療して貰ふのだそうで、永いものは二十年も居り、三四年の者が最も多いとの事でした。油房で豆油と大豆粕の製造状況を見學しましたが、何れも支那人が素裸で從事して居りました。資源館を見れば滿洲のアウトラインを知る事が出来るといふ事でしたが夕方になつた爲、急いで一巡した。



上板甲丸るらう

大連 東旅館にて、十二月十日苦力の項つき。一日二十四錢五厘を苦力頭に納めて病氣の時などはなほる迄治療して貰ふのだそうで、永いものは二十年も居り、三四年の者が最も多いとの事でした。油房で豆油と大豆粕の製造状況を見學しましたが、何れも支那人が素裸で從事して居りました。資源館を見れば滿洲のアウトラインを知る事が出来るといふ事でしたが夕方になつた爲、急いで一巡した。

甲斐がある様に、四杯を平らげゴロリと寝ころんだら實に良い氣持になり、天下太平海上波靜かになりました。

うらる丸 船中にて、十二月十五日。大したゆれもなく、甲板で晴を見る事が出来た。今日一日も寝たり食つたり生活。たまには輪投げなどもした。讀書でもしやうかと思つたが、あまり取りの關係や其他で、ながくうまく行きました。夜七時頃から活劇映画がありましたが、一時間許りするが故障が出来、途中で止めるを得ませんでした。



濠壘山冠雞東

見學、各種果實や病虫害にやられた果實等を見て十一時半歸船。某師團出征の爲、貨物船にクレソンで軍馬を積み込む光景や、日本刀仕込みの軍刀を腰に横へ、意氣揚々胸をさらして行き交ふ軍人等を見て、此處に亦新たに戦時氣分がうたれました。船は一時出帆、三時半から同船した山形自治講習所生徒三十余名、門司で買ひ込んだホンカンとバナナで茶話會を開催、かけるゝ滿洲所感を述べる事になり、僕も代表として一席辯じさせられました。船は、聊か汗を流しました。船はいよいよ瀬戸内海にはいつて来ました。流石は恍惚たらざるを得ません。

京都 奉公館にて、十二月十日。七時半無事神戸に入港。直ちに濠洲神社参拝目下改築中なれども、参詣人陸續斷絶なし。九時四十五分京都に向つて出發。途中茨木高槻兩驛に下車。茨木では三島郡農業講習場見學、所長は我々の關係者、其お話を附近農家の改善に努めて居らるゝが相當の成績を挙げつゝある。由此處ではからずも加藤校長にお目にかかり、おなつかしかつたので高槻では京大附屬農學見學、種々の施設を見ましたが、暗渠排水、灌漑利便増進等が其特徴と思はれました。今夜はこゝに落ちつき今しも夕飯をすました處です。

京都 奉公館にて、十二月十日。九時頃出發。京大農學部に到り、橋本博士のお話を承りました。加藤先生の親友であり協會關係でもあるので、到つてなごみ深い御話でした。後加藤先生と共に、桃山御陵、乃木神社を参拜いたしました。續いて清水寺、知恩院に参詣、何れも昨年中學の修學旅行で参つた處であるが鮮滿を見て来た目には、成程日本らしい頼母しい氣持になりました。今晚入浴の際、體重を計つたら、十七七六百あり、此旅行で一貫目以上肥りました。

山田 宇仁館にて、十二月十日。京都の今朝は霧が頗る深く、電車が自動車も八時頃迄ヘッドライトを照らして居りました。京大に出掛けて橋本博士加藤先生と共に、尊攘堂を拜觀、松陰門下の初め久坂高杉品川其他ありましたが、何れも見事なものでした。此堂は年一回十月二十七日の外は開けない事になつて居るのでありますが、特に僕等の爲に

觀覽を許された事は、無上の光榮として感謝いたしました。比叡山越えは昨年ケイアルカアで苦もなかつたのでしたか、今日は重いリュックサックを背負ふて、急傾斜の登攀は實に夏になつた様な氣分でした。然し自然の比叡山といふ氣分を味ふ事が出来て、又一段愉快でした。三井寺にも一寸参詣六時半、に着きました。

俳句 二月二十日同人目黒尾南君凱旋賜暇郷に付歓迎句會を開く阿武隈の流れ狭みて發る雪 目黒 星甫 種浸せば泡のいつまでも 濱崎 冬至 隣より種井を借りて来りけり 渡邊 蘇民 種浸ひけば生るゝ湯のあり 志賀野 壽司 殘雪を踏んで關伽井に詣りけり 皆川 二樓 山吹の影みだけり種浸す 石田 修二 眞陽うけて櫻の新芽の光るなり 江連 半仙 流れ來て巡れる泡の種浸す 關本 雲浦 種浸結び直して浸しけり 高萩 六玉 鉢の木の芽のふくらむを樂みに 岡本 不味男 谷底や流るゝ如く雪殘る 原雪 たけし 殘雪の照り返り居る峽かな 石川 六 飛 殘雪の嶺うつりある水田かな 坂本 野風 折伏して水浸ける盛や木の芽吹く 高木 撫山

祝意を 杉田 國分孫市 初孫にます武夫を二人あぐ 大きな内の民に恵みし 同 鈴木長藏 同 同 本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

内郷村報の

六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。

二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を審り、總親和總努力の實現を期す。

三、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を審り、總親和總努力の實現を期す。

四、村内の善事美行を表彰し、且之を奨励す。

五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。

六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

之に伴ふて假りに一人の候補者に對して十人の運動員が、十日間之に關與することにして、一日一人の勢力費即

内郷村報

發行所 内郷村報社 編集者 大内民憲 印刷所 大内民憲印刷所

訂費 一月一元 三月三元 半年五元 一年十元 郵費在內 廣告費 別表 電話 〇二二二

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

之に伴ふて假りに一人の候補者に對して十人の運動員が、十日間之に關與することにして、一日一人の勢力費即